

「平成 30 年度第 2 回図書館協議会」議事録

日時 平成 31 年 2 月 4 日（月）14：30～16：00

場所 鹿児島市立図書館 AVホール

出席 会長・委員計 6 名

事務局 図書館館長、副館長、市街地まちづくり推進課長、その他関係職員

1 開会

2 図書館長あいさつ

3 議事

(1) 平成 30 年度の図書館の利用状況について

(2) アンケート調査結果について

(3) 前回の図書館協議会における要望事項について

(4) まちなか図書館（仮称）基本構想（案）について（経過報告）

4 閉会

〈議事概要〉

(1)

（事務局説明）

委員

入館者減少について

60 代以上の方は急な気温差があると、行動したくなくなる傾向があるとの情報がある。
駐車場が混雑して駐車できないなどの問題がある。
雑誌スポンサーの拡大については学習塾とかに、依頼してみてもどうかと思う。

事務局

6・7月の温度差の影響については入館者の世代ごとの集計は行っていない。
中高校生の朝の入館者数が多い時、その日の入館者に比例する傾向はある。
雑誌スポンサーについて、学習塾を訪問して趣旨を説明したが賛同いただけなかったところもあったが、有望な業種なので、今後も企業訪問をしていきたい。

会長

市立図書館の利用者が減り、公民館の利用者が増えているのは、見方を変えれば、これは公民館に利用者が動いているとも考えられる。

(2)

（事務局）

図書館で行ったアンケート（10月24日～11月14日まで、1,062件の回収）の説明

委員

これは図書館を利用する人のアンケートなので、満足しているから利用している結果になっている。都城で市民の会があり、一般市民として参加したいと思い勉強会に私的に2, 3度参加したが、ものすごく熱心な思いがありながら、図書館は利用していない人たちだった。利用してないのに熱心なので驚いた。

利用者を増やそうと思えば、図書館に来てない人たちになぜ図書館に来ないのか聞いた方が、効果があるのではないかと思った。

最近めっきり市立図書館に来なくなった。それは、ホームページもリニューアルされて、図書検索も使いやすくなりリクエストしやすくなったためであり、前は1週間かかってたものが2日くらいで公民館に届くようになり便利になっている。

会長

利用してない人たちがなぜこないのかという裏側からの視点で、来れるような視点を向けて、学校の先生たちもおられるので、学校関係の方々に「図書館にいきますか？」などの質問から始めて、アンケートをしてみても、どうだろうか。

委員

図書館を利用しない人たちは図書館に興味がないから利用しないものだと思っていたが、その中でも図書館に対する熱い思いを語る人たちがいることがわかり、目からうろこだった。

事務局

利用されてない人の声をどうやってすくいあげるか、学校等で、もし、アンケート調査に協力依頼できるのであれば検討してみたい。

委員

母が図書館を利用するが、市立図書館は電車等の停留所が近くなく交通の便が悪い。電車・バスなど公共交通機関が利用しにくい場所にある。

それで、駐車場利用となるが、競技会など行事があるとすぐ混雑して入れなくなる。

交通の便が良くないところは問題なのかもしれない。

そんな中、天文館に図書館ができれば、利用しやすくなるのではないか。

委員

鹿児島女子高からの出席ですが、許可をもらって、女子高の全校生徒や抽出なりしてアンケートに協力してもいい。学校図書館の利用も多いので、公共図書館をどう利用しているのか、また利用しない生徒はその理由を調査してもいい。

会長

女子高のアンケートは面白い結果がでるかもしれない。いろんな観点からお願いしてみたい。

委員

企画展示イベントの満足度について

アンケート3（どちらともいえない）が41%だが、わからないという答えだと思う。興味がない。講座に対す

る関心がないという意味だと思う。

講座とかお話会のスタイルも抜本的に今の時代に合せながら古いものと新しいものをどうするかということだと思う。

興味関心の仕方、アウトプットの仕方、情報提供の仕方など、時代的に変わってきているので、講座のスタイルもいろいろ検討していかないといけない。

先日、富山県の複合施設の図書館にいった。幼児教室と絵本を使いながらの行事があった。図書館でもどこまでできるかわからないが難しさを感じる。

委員

鴨池公民館で審議会があり、公民館には調理室があり、“夫婦なんだかいいにおい”とかいって一緒にホットケーキを作る企画があった。このような講座とタイアップしてもいいのでは。夏休みにコラボとかしてみてもどうだろうか。

利用者の影響についてですが、

子どもについて、児童クラブがたくさんできている。クラブの対象者が以前は小学1～3年だったが、1～6年になりクラブが増えて100以上団体があるので、夏休み（7・8月）の過ごし方に影響し、利用者の動きが変わってきているのではないかと思う。

事務局

図書館について、今まで不易な施設であったと思うが今のお話のように流行に乗って変わっていかざるをえない状況がある。

企画展示については、アンケートに参加していない人がイベントに参加しづらい。マンネリ化もあるのではと思う。

会長

不易と流行ですが、今は変わるのがいいという流れであるが、変わっていかないものも必要である。図書館はどうゆうものなのか、変わる所は変わりながら本来の図書館を忘れずに模索してほしい。

委員

最近 インターネットを使って予約をしてみたところである。どれくらいの件数があるのか教えてほしい。

事務局

29年度の資料になるが、全体の64.78%であり、圧倒的にネットで予約されている。13万6426件中88,371件がネットで予約されている。

委員

ずいぶん多い結果である。

(3)

特になし

(4)

(事務局説明)

委員

乃村工藝社に決まったということだが、設計（基本構想）だけか。

事務局

基本構想と運営は別である。今回は基本構想だけである。

基本計画についてどこかは、まだ決まっていない。

委員

運営するところが重要だと思う。

事務局

基本構想については、ホームページに素案を公表していろいろな意見をいただきたいと考えている。

委員

官民連携に関する方針について、どういう主体で連携を進める予定なのか。4市の連携中枢の取組みやブックポストなど、現在図書館で取り組んでいるようなので、この連携中枢の協力も生かしてほしい。資料の官民連携とはどういうイメージなのか。

事務局

官民連携に関する方針というのはちょっと言葉が足りなかったかもしれない。

ここでイメージしているのは、再開発ビルの中身のことをいっている。商業施設で食事をするところもできるので、図書館も含めて官民連携に関して3つの方針に向けて取り組んでいこうというものである。

事務局

図書館に関しては、4市連携中枢を結んでおり図書の貸し借りができるようになっている。このことは、まちなか図書館の基本計画でも検討していく方向である。

委員

連携を図るには、それぞれのコスト面の負担もあるだろうが、地元商店街など民間との連携もあるので検討してほしい。

会長

市立図書館がある程度の基本的な運営を行うことは決まっているのか。

まちなかの構想で市立図書館が基本的な運営を行いながら、商業施設との連携を図るのが基本的な考え方ではないのか。

今後は、図書館部分は図書館が考え、それが基本としてあって、基本からはみ出していく部分について、民間

との連携を今後どうやっていくか、分館としてまちの活性化にどうつなげていくかを検討するというところでいいのか。

事務局

そのとおりです。

委員

やっとなまなかに図書館ができる。図書館の熱意を感じるが、もっと積極的に図書館側の要望を言ってほしい。計画段階で言えないことがあるかもしれないが、設計と運営を切り離してほしくない。運営する人が使い勝手のいいようにするものなので考えてほしい。

乃村工芸社はデパートのディスプレイとか手がけていて、横浜の再開発など実績がある。設計と運営が異なると使い勝手が悪くなるのではないかと気になる。

提案の中で、蔵書で周辺書店との連携とかはいいと思う。

事務局

ここで想定しているのは、天文館には大きな書店が2つあるが、おすすめの本を図書館で紹介する一方、近くの書店でも販売してますよ、といった連携の仕方である。

委員

まちの再開発で、図書館ができることで本屋さんが潰れるのではなくて、本屋さんとも連携を図れるといいと思う。

委員

賑わい活動ゾーンや市民交流閲覧ゾーンなどの空間利用についてアクティブラーニングなどそれ専用のスタッフを置くか、これまでの図書館職員とは違ってワークショップデザイナーなど配置するなど、市が運営するなら、そのようなものを理解する専門性が図書館の中にも必要となる。

マルヤガーデンとかが取り組んでいるが、空いている空間がある。映像が見られるとか、階段が回廊型だと、仕掛けをしないといけない。行政が運営するのであれば、もうひと手間かけないと難しい。

事務局

アクティブラーニングだけに絞ると、ターゲットはどこなのかわからなくなるので館内コンセプトを広く考えていく必要がある。

会長

市立図書館と同じ形でなく、タカプラの4、5階に作る意味があるよう異なったものづくりをしてほしい。

若い方々がちょっとコーヒーを飲みに行くついでに寄ってみようかという感じ。

図書館機能をもっているということは、あそこはうるさい空間だとなるといけない。

しゃれた空間で人が交流しながらとか、静かに本が読めるなど、新しい発想、新しいコンセプトをもっておかないといけない。

できるだけ多くの人の意見を聞いて、他の館のプラスとマイナスを聞くなどして、作った施設けどあまり利用されていないと言われないようにしっかり考えていく必要がある。

委員

良いものを作るためには、設計と運営が切り離されていると難しいのではと思う。どんな運営をするのかが大事ではないか。

委員

私たちの青春時代タカプラは待ち合わせ場所の思い出があり、若い人たちの賑わいが戻るといいと思う。そういうふう若い人たちが立ち寄りたくなるものを作ってほしい。

委員

若者を巻き込んだ取り組みで若者が集まる図書館もいいと思う。

会議終了